

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	中央工学校
設置者名	学校法人 中央工学校

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	建築学科 設計専攻 (4年制)	夜・通信	3 2 2 5時間	80×4＝320時間	
	建築学科 施工専攻 (4年制)	夜・通信	3 1 0 5時間	80×4＝320時間	
	建築学科 設備専攻 (4年制)	夜・通信	3 0 0 0時間	80×4＝320時間	
	建築工学科 設計専攻 (3年制)	夜・通信	2 4 4 5時間	80×3＝240時間	
	建築工学科 施工専攻 (3年制)	夜・通信	2 2 3 5時間	80×3＝240時間	
	建築工学科 設備専攻 (3年制)	夜・通信	1 8 6 0時間	80×3＝240時間	
	建築設計科 (2年制)	夜・通信	1 6 3 5時間	80×2＝160時間	
	木造建築科 (2年制)	夜・通信	1 5 7 5時間	80×2＝160時間	
	建築設備設計科 (2年制)	夜・通信	1 5 6 0時間	80×2＝160時間	
	建築室内設計科 (2年制)	夜・通信	1 6 0 5時間	80×2＝160時間	
	土木建設科 (2年制)	夜・通信	7 8 2. 5時間	80×2＝160時間	
	測量科 (1年制)	夜・通信	2 7 6時間	80×1＝80時間	
	地理空間情報科 (1年制)	夜・通信	5 8 2時間	80×1＝80時間	

	インテリアデザイン科 インテリアデザイン専攻 (3年制)	夜・通信	1155時間	$80 \times 3 = 240$ 時間	
	インテリアデザイン科 ファニチュアデザイン専攻 (3年制)	夜・通信	1080時間	$80 \times 3 = 240$ 時間	
	3DCAD設計科 (2年制)	夜・通信	450時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
商業実務専門課程	情報ビジネス科 (2年制)	夜・通信	504時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
文化・教養専門課程	リベラルアーツ科 (1年制)	夜・通信	216時間	$80 \times 1 = 80$ 時間	
	グローバル科 (1年制)	夜・通信	216時間	$80 \times 1 = 80$ 時間	
工業専門課程	建築科 (2年制)	夜・通信	1480時間	$45 \times 2 = 90$ 時間	
	土木測量科 (2年制)	夜・通信	657時間	$45 \times 2 = 90$ 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧を公開している。授業科目一覧の中に、教員の実務経験に関するチェック欄あり。

(掲載：<https://chuoko.ac.jp/disclosure/>)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	中央工学校
設置者名	学校法人 中央工学校

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて理事名簿を公開している。
(掲載：<https://chuoko.ac.jp/disclosure/>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	建築積算事務所役員	約3年	教育内容・学科編成 に対する専門的な 知見
非常勤	設備会社役員	約3年	教育内容・学科編成 に対する専門的な 知見
(備考) 当法人の現行理事の任期は令和6年6月9日～令和9年度定時評議員会終結時 まで(約3年)。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	中央工学校
設置者名	学校法人 中央工学校

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 各科における授業計画書(教科構成及び教育実施計画)は、実施年度の2年前に教育分野(建築分野、デザイン分野、土木・測量・造園分野、機械・CAD分野、商業・文化教養分野)ごとに学内会議を経て決定し、前年度5月に校長の承認を得ている。また、教育実施計画書には科目の目的・目標を定め、週ごとの授業内容を記載している。当該年度6月中旬に授業計画書(教科構成及び教育実施計画)をHPにて公開している。 授業開始にあたり、科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表(コマシラバス)を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画が表記され、全学科・全科目統一書式としている。また、同様の内容が記載された日程表を生徒に配付をしている。	
授業計画書の公表方法	https://chuoko.ac.jp/disclosure/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験(レポート課題含む)により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的な評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。これらは、生徒手帳に記載し周知している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 前後期の2期制を取っている。各科で学修成果の評価を基に、前後期で成績概況を作成し、各分野で取りまとめ、校長に報告をしている。 その方法として、各科における平均点、成績分布などを報告している。本校では、Aランク(100～80点)、Bランク(79～70点)、Cランク(69～60点)、Dランク(59点以下)としている。また、同様に出席率も集計をしている。 実習科目(卒業設計・進級課題)においては、学内で「卒業・進級作品審査要領」を定め、審査委員による評価を行い、校長に承認を得て卒業式にて学生表彰を行っている。 成績評価基準及び、客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料をHPにて公開をしている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://chuoko.ac.jp/disclosure/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 教育実施計画書(カリキュラム・ポリシー)にて、学科における入学から卒業までの目的・目標が定められ、各科目においても同様である。これらの目的・目標を定期試験や卒業作品により総合的に判断する。 卒業認定においては、校長を審議委員長とする卒業成績審議会を実施し、卒業を決定する。 以下の規準をもって卒業を認定している。 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://chuoko.ac.jp/disclosure/

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 前後期の2期制を取っている。各科で学修成果の評価を基に、前後期で成績概況を作成し、各分野で取りまとめ、校長に報告をしている。 その方法として、各科における平均点、成績分布などを報告している。本校では、Aランク(100～80点)、Bランク(79～70点)、Cランク(69～60点)、Dランク(59点以下)としている。また、同様に出席率も集計をしている。 実習科目(卒業設計・進級課題)においては、学内で「卒業・進級作品審査要領」を定め、審査委員による評価を行い、校長に承認を得て卒業式にて学生表彰を行っている。 成績評価基準及び、客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料をHPにて公開をしている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://chuoko.ac.jp/disclosure03
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 教育実施計画書(カリキュラム・ポリシー)にて、学科における入学から卒業までの目的・目標が定められ、各科目においても同様である。これらの目的・目標を定期試験や卒業作品により総合的に判断する。 卒業認定においては、校長を審議委員長とする卒業成績審議会を実施し、卒業を決定する。 以下の規準をもって卒業を認定している。 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://chuoko.ac.jp/disclosure03

様式第2号の4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

学校名	中央工学校
設置者名	学校法人 中央工学校

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年6月中旬に最新情報をHP公開している。
収支計算書又は損益計算書	https://chuoko.ac.jp/disclosure/
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	建築学科 設計専攻			○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3420 単位時間／単位	945 単位時間 ／単位	915 単位時間 ／単位	1530 単位時間 ／単位	30 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320人		151人 (設計専攻 15人)	0人	14人	34人	48人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。

科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。

成績評価の基準・方法

（概要）

学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。

100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。

卒業・進級の認定基準

（概要）

■ 進級基準

- 学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。
- 所定の進級手続きを完了すること。

■ 卒業基準

- 履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 コンペティションや技能大会に参加する意欲ある生徒には、放課後等を使い個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。 著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	20人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 建築系全体では、総合工事業（32.8%）、建築工事業（23.4%）、建築設計業（18.0%）、設備工事業（7.8%）である。 建築学科では、(株)内藤ハウス、(株)京王建設、(株)野村設計、(株)ホーク・ワン、(株)渡辺建設事務所など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級建築施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級、2級建築士、建築積算士補など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
213人	7人	4.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学習意欲低下、経済的理由、病気療養など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	建築学科 施工専攻			○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3420 単位時間／単位	975 単位時間 ／単位	870 単位時間 ／単位	1545 単位時間 ／単位	30 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320人		158人 (施工専攻 22人)	0人	14人	32人	46人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 コンペティションや技能大会に参加する意欲ある生徒には、放課後等を使い個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。 著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22人 (100%)	0人 (0%)	22人 (100%)	0人 (0%)
主な就職、業界等) 建築系全体では、総合工事業（32.8%）、建築工事業（23.4%）、建築設計業（18.0%）、設備工事業（7.8%）である。 建築学科では、(株)佐伯工務店、新三平建設(株)、(株)第一ヒューテック、三機テクノサポート(株)、旭建設(株)など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級建築施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級、建築積算士補など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
213人	7人	4.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学習意欲低下、経済的理由、病気療養など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築学科 設備専攻		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3420 単位時間／単位	1035 単位時間 ／単位	915 単位時間 ／単位	1395 単位時間 ／単位	75 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320人		150人 (設備専攻 14人)	0人	13人	36人	49人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマンラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 コンペティションや技能大会に参加する意欲ある生徒には、放課後等を使い個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。 著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	17人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 建築系全体では、総合工事業（32.8%）、建築工事業（23.4%）、建築設計業（18.0%）、設備工事業（7.8%）である。 川本工業（株）、（株）ミナト設備企画設計、（株）第一ヒューテック、三機工業（株）、高砂熱学工業（株）			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級建築施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級、2級建築士、建築積算士補など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
213人	7人	4.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学習意欲低下、経済的理由、病気療養など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築工学科 設計専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2610 単位時間／単位	840 単位時間 ／単位	570 単位時間 ／単位	1170 単位時間 ／単位	30 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		30人 (設計専攻 6人)	0人	12人	20人	32人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 コンペティションは実習科目で学生全員が取り組み、入賞するよう積極的な就学を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。 著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	11人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 建築系全体では、総合工事業（32.8%）、建築工事業（23.4%）、建築設計業（18.0%）、設備工事業（7.8%）である。 (株)ビームスデザインコンサルタント、久慈設計、一建設、菊地建築設計事務所、藤木工務店 など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級建築施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級、建築積算士補など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48人	4人	8.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学習意欲低下、体調不良など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築工学科 施工専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2610 単位時間／単位	870 単位時間 ／単位	525 単位時間 ／単位	1185 単位時間 ／単位	30 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		36人 (施工専攻 12人)	0人	12人	19人	31人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 コンペティションは実習科目で学生全員が取り組み、入賞するよう積極的な就学を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。 著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13人 (100%)	0人 (0%)	13人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 建築系全体では、総合工事業（32.8%）、建築工事業（23.4%）、建築設計業（18.0%）、設備工事業（7.8%）である。 株式会社丹青社TDC、株式会社スペース・デザインソリューション、株式会社大城組、株式会社 辰、埼玉建興株式会社 など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級建築施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級、建築積算士補など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48人	4人	8.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学習意欲低下、体調不良など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	建築工学科 設備専攻		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2610 単位時間／単位	930 単位時間 /単位	570 単位時間 /単位	1035 単位時間 /単位	75 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		30人 (設備専攻 6人)	0人	10人	21人	31人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。
成績評価の基準・方法
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。
卒業・進級の認定基準
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 コンペティションは実習科目で学生全員が取り組み、入賞するよう積極的な就学を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。 著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	12人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 建築系全体では、総合工事業（32.8%）、建築工事業（23.4%）、建築設計業（18.0%）、設備工事業（7.8%）である。 (株)ワールドコーポレーション、(株)ダイキンアプライド、東洋熱工業(株)、三機テクノサポート(株)、田中電設(株) など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級管工事施工管理技士補、2級建築士、ビジネス能力検定ジョブパス3級、建築積算士補など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48人	4人	8.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学習意欲低下、体調不良など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築設計科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1 8 0 0 単位時間／単位	7 2 0 単位時間 /単位	3 7 5 単位時間 /単位	6 7 5 単位時間 /単位	3 0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
3 6 0 人		1 5 9 人	1 3 人	2 0 人	2 0 人	4 0 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。
成績評価の基準・方法
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。
卒業・進級の認定基準
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、クラスは担任制により運営し、生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担任が中心に行い、生徒を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。 著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
84 (100%)	7人 (8.3%)	76人 (90.5%)	1人 (1.2%)
(主な就職、業界等) 建築系全体では、総合工事業（32.8%）、建築工事業（23.4%）、建築設計業（18.0%）、設備工事業（7.8%）である。建築設計科では、西武建設（株）、ポラスグループポラス（株）、（株）アイダ設計、（株）現代建築研究所、（株）トモアス・イノベーションなど			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級建築施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級、福祉住環境コーディネーター3級など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
177人	8人	4.5%
(中途退学の主な理由) 学習意欲低下、進路変更、学業不振、健康障害、出席不良、不認定など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	木造建築科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間／単位	690 単位時間 ／単位	135 単位時間 ／単位	945 単位時間 ／単位	30 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		47人	0人	7人	18人	25人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	
学修支援等	
（概要） 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により	

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。 技能大会に参加する意欲ある学生には個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。 著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	1人 (3.0%)	31人 (93.9%)	1人 (3.1%)
(主な就職、業界等) 建築系全体では、総合工事業（28.3%）、建築工事業（21.9%）、建築設計業（17.2%）、設備工事業（9.4%）である。 木造建築科では、ポラス(株)、大和原工事(株)、住協建設(株)、(株)松永建設、(有)内田工務店など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) ビジネス能力検定ジョブパス3級、建築大工技能士3級、丸のこ等取扱作業の安全衛生教育など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
55人	4人	7.3%
(中途退学の主な理由) 学業不振、学習意欲低下、健康障害、不認定など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築設備設計科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1 8 0 0 単位時間／単位	5 5 5 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	1 1 1 0 単位時間 /単位	1 3 5 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
8 0 人		3 4 人	1 人	7 人	1 1 人	1 8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。 著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100%)	0人 (0%)	8人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 建築系全体では、総合工事業（32.8%）、建築工事業（23.4%）、建築設計業（18.0%）、設備工事業（7.8%）である。 建築設備設計科では、日本ファシリオ株式会社、三建設備工業株式会社、アネス株式会社、株式会社飯沼工務店、株式会社大勝テックなど			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級管工事施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	1人	3.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築室内設計科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間／単位	525 単位時間 ／単位	420 単位時間 ／単位	855 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		34人	4人	10人	14人	24人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。 コンペティションや技能大会に参加する意欲ある生徒には、放課後等を使い個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。 著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20人 (100%)	1人 (3.2%)	18人 (93.6%)	1人 (3.2%)
(主な就職、業界等) 建築系全体では、総合工事業（32.8%）、建築工事業（23.4%）、建築設計業（18.0%）、設備工事業（7.8%）である。 建築室内設計科では、クリナップ(株)、(株)リフレット、(株)丹青TDC、(株)日商インターライフ、(株)K GRITなど			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 色彩検定3級、2級リビングスタイリスト、パース検定2級、ビジネス能力検定ジョブパス3級など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42人	5人	11.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学習意欲低下、学業不振など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	土木建設科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1 9 0 3 単位時間／単位	1 0 6 2 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	7 6 6 単位時間 /単位	7 5 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
1 6 0 人		6 5 人	1 人	6 人	2 4 人	3 0 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。
成績評価の基準・方法
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。
卒業・進級の認定基準
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
42人 (100%)	4人 (9.5%)	38人 (90.5%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 土木測量系全体では、総合設計（2.0%）、コンサルタント（15.0%）、測量（16.0%）、総合工事（41.0%）、土木工事（造園含む）（24.0%）、鉄骨構造物工事（1.0%）、物品賃貸（リース）（1.0%）である。 土木建設科では、（株）福田組、岩田地崎建設（株）、東鉄工業（株）、（株）ガイアート、鹿島道路（株）など。			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 1級土木施工管理技士補、2級土木施工管理技士補、測量士補、			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
77人	4人	5.2%
(中途退学の主な理由) 学業不振、出席不良、進路変更 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	測量科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	1 3 0 5 単位時間／単位	8 5 8 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	4 4 7 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
8 0 人		3 8 人	0 人	6 人	1 5 人	2 1 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。
成績評価の基準・方法
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。
卒業・進級の認定基準
（概要） ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。
学修支援等
（概要） 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
49人 (100%)	8人 (16.3%)	41人 (83.70%)	0人 (0.0%)
（主な就職、業界等） 土木測量系全体では、総合設計（2.0%）、コンサルタント（15.0%）、測量（16.0%）、総合工事（41.0%）、土木工事（造園含む）（24.0%）、鉄骨構造物工事（1.0%）、物品賃貸（リース）（1.0%）である。測量科では、ビック測量（株）、八州（株）、京葉測量（株）、大東エンジニアリング（株）など			
（就職指導内容） 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 測量士補			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
50人	1人	2.0%
（中途退学の主な理由） 学業不振		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	地理空間情報科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	1 3 4 5 単位時間／単位	8 3 1 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	4 7 4 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	4 0 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
4 0 人		2 0 人	0 人	2 人	1 4 人	1 6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。
成績評価の基準・方法
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。
卒業・進級の認定基準
（概要） ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。
学修支援等
（概要） 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23人 （100%）	0人 （0%）	23人 （100.0%）	0人 （0.0%）
（主な就職、業界等） 土木測量系全体では、総合設計（2.0%）、コンサルタント（15.0%）、測量（16.0%）、総合工事（41.0%）、土木工事（造園含む）（24.0%）、鉄骨構造物工事（1.0%）、物品賃貸（リース）（1.0%）である。地理空間情報科では、（公財）日本測量協会、アジア航測（株）、（株）オオバ など			
（就職指導内容） 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 測量士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25人	3人	12.0%
（中途退学の主な理由） 健康障害、学業不振		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報デザイン科情報デザイン専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2610 単位時間／単位	585 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	2025 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		48人 (情報デザイン 専攻33人)	0人	4人	14人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。
成績評価の基準・方法
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業制作や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。
卒業・進級の認定基準
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 コンペティションに参加する意欲ある生徒には、放課後等を使い個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。 業界人による講演会を通じ業界の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100%)	1人 (6%)	18人 (94%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) インテリアデザイン科インテリアデザイン専攻では、大昌工芸（株）（株）バウハウス丸栄（株）オフィスインテリア（株）日商インターライフ（株）モーリコーポレーション など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 色彩検定2級、色彩検定3級、商業施設士補 など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
50人	2人	4%
(中途退学の主な理由) 学習意欲低下 進路変更 出席不良 健康障害など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ファッションデザイン科ファッション専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2610 単位時間／単位	360 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	2250 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		35人 (ファッション 専攻7人)	0人	4人	14人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。
成績評価の基準・方法
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業制作や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。
卒業・進級の認定基準
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 コンペティションに参加する意欲ある生徒には、放課後等を使い個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。 業界人による講演会を通じ業界の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	6人 (85%)	1人 (15%)
(主な就職、業界等) インテリアデザイン科ファニチュアデザイン専攻では、富士室内工芸（株）、カネモク工業（株）、(株)K GRIT、(株)wood風 など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 色彩検定3級 など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37人	2人	5.4%
(中途退学の主な理由) 学習意欲低下 など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	3 D C A D設計科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間／単位	225 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	1575 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	72 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		30人	3人	4人	2人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）ごとに学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 1年次には工場見学を実施している。生産現場を見学することにより、加工方法やモノづくりの流れについて理解を深めている。 2年次には3次元CAD利用技術者試験を本校内にて実施している 本校は、SOLIDWORKS 認定アソシエイト（CSWA）のプロバイダであり、学内においてCSWAを実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状態を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	10人 (90.9%)	1人 (9.1%)
(主な就職、業界等) 機械分野全体では、総合設計（23%）、機械設計（13%）、鉄鋼金属製品（31%）である。 3DCAD設計科では、（株）チバダイス、ぺんてる（株）、ヨシモトポール（株）、（株）清和光学製作所、ニューロング柏（株）など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) SOLIDWORKS 認定アソシエイト（CSWA） 3次元CAD利用技術者試験			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12人	1人	9.1%
(中途退学の主な理由) 学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学後の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	情報ビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1728 単位時間／単位	1080 単位時間 ／単位	432 単位時間 ／単位	216 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		54人	53人	3人	9人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100%)	1人 (12.5%)	7人 (87.5%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 主な業界は、不動産（28.6.9%）、サービス（57.1%）などである。主な就職先は、(株)リブ・マックス、(株)コロワイドグループ、(株)レインズインターナショナルなどである。			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日商簿記検定3級、全経簿記能力検定2級(商業)/2級(工業)/3級、MOS PowerPoint2016/Excel2016/Word 2016/Word Expert 2016、ビジネス実務マナー検定2級/3級など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	4人	11.1%
(中途退学の主な理由) 就職、大学院進学、帰国		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	リベラルアーツ科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	8 6 4 単位時間／単位	7 9 2 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	7 2 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
3 0 人		3 4 人	3 4 人	2 人	8 人	1 0 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	
学修支援等	
（概要） 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
32人 (100%)	22人 (68.8%)	8人 (25.0%)	2人 (6.3%)
（主な就職、業界等） 主な業界は、人材派遣（50.0%）、不動産（12.5%）などである。主な就職先は、 （株）フェローシップ、THEパートナーズ株式会社、日中通商株式会社などである。			
（就職指導内容） 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就 職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談 等			
（主な学修成果（資格・検定等）） TOEFL、TOEIC、日本語能力試験N1など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35人	3人	8.6%
（中途退学の主な理由） 大学院進学、帰国		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者 には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3 者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	グローバル科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	8 6 4 単位時間／単位	8 6 4 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
4 0 人		4 1 人	4 0 人	3 人	9 人	1 2 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	
学修支援等	
（概要） 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。 在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
45人 (100%)	42人 (93.3%)	1人 (2.2%)	2人 (4.4%)
（主な就職、業界等） 業界は、人材派遣（100％）である。就職先は、株式会社フェローシップである。			
（就職指導内容） 就職ガイダンス（年４回）、学内合同企業説明会（年２回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
（主な学修成果（資格・検定等）） TOEFL、TOEIC、日本語能力試験N1など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46人	1人	2.2%
（中途退学の主な理由） 帰国		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	夜	1 7 1 2 単位時間／単位	7 6 4 単位時間 /単位	1 4 8 単位時間 /単位	8 0 0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
1 6 0 人		5 0 人	0 人	9 人	1 5 人	2 4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。 また、実務的な体験型学習として設計製図の日程の中で材料実験を実施し、鉄筋の引張試験、コンクリート練り体験、コンクリートの圧縮試験を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0.0%)	14人 (77.8%)	4人 (22.2%)
(主な就職、業界等) 建築系全体では、総合工事業（32.8%）、建築工事業（23.4%）、建築設計業（18.0%）、設備工事業（7.8%）である。 建築科では、（株）細田工務店、（株）坂爪建築事務所、（株）川村工営、（株）イワブチ、（株）積水ハウス不動産など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 建築積算士補、2級建築施工管理技士補、福祉住環境コーディネーター3級など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53人	3人	5.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康障害など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	土木測量科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜	1730 単位時間／単位	1046 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	604 単位時間 ／単位	80 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		25人	0人	7人	12人	19人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。 科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。 100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ■ 進級基準 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■ 卒業基準 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。	

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0.0%)	5人 (100.0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 土木測量系全体では、総合設計（2.0%）、コンサルタント（15.0%）、測量（16.0%）、総合工事（41.0%）、土木工事（造園含む）（24.0%）、鉄骨構造物工事（1.0%）、物品賃貸（リース）（1.0%）である。 土木測量科では、双葉航測（株）、野口建設（株）、（株）大洋画地、千代田測器（株）など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 測量士補			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
建築学科	200,000 円	900,000 円	280,000 円	その他は、 施設維持費・学生諸費
建築工学科	200,000 円	900,000 円	280,000 円	
建築設計科	200,000 円	900,000 円	280,000 円	
木造建築科	200,000 円	900,000 円	290,000 円	
建築設備設計科	200,000 円	900,000 円	280,000 円	
建築室内設計科	200,000 円	900,000 円	280,000 円	
土木建設科	200,000 円	900,000 円	290,000 円	
測量科	200,000 円	1,050,000 円	290,000 円	
地理空間情報科	200,000 円	1,050,000 円	290,000 円	
インテリアデザイン科	200,000 円	900,000 円	280,000 円	
3DCAD 設計科	200,000 円	900,000 円	270,000 円	
情報ビジネス科	0 円	550,000 円	250,000 円	
リベラルアーツ科	0 円	550,000 円	250,000 円	
グローバル科	0 円	550,000 円	250,000 円	
建築科(夜間)	120,000 円	420,000 円	120,000 円	
土木測量科(夜間)	120,000 円	420,000 円	130,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価については、学校HP公開している。 (https://chuoko.ac.jp/disclosure/)
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)
学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、中央工学校運営指針に則り自己評価を実施している。実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となっている。また、卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図っている。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
設備工事会社 課長 (建築関連学科)	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
造作家具工事会社 代表取締役 (デザイン関連学科)	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
測量会社 支社長 (土木・測量・造園関連学科)	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
昇降機据付・設計会社 グループリーダー (機械・CAD関連学科)	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
包装梱包機械の企画・開発 代表取締役社長 (商業・文化関連学科)	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
同窓会 相談役	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
高等学校 副校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	教育関係者
保護者	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	保護者
近隣町会 会長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	地域住民
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価については、学校HP公開している。 (https://chuoko.ac.jp/disclosure/)		
第三者による学校評価(任意記載事項)		
令和6年度に「特定非営利活動法人職業教育評価機構」の第三者評価を受審し、学校ホームページ及び、職業教育評価機構ホームページに「評価報告書」を公開している。 (https://chuoko.ac.jp/disclosure/)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価については、学校HP公開している。 (https://chuoko.ac.jp/)
--